

# 組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：岡山大学病院

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>①-1 目標</b>	<p>職員教育面では、主に次のような成果をあげることができた。</p> <p>①文部科学省GP「看護師の人材養成システムの確立」(平成23年度は3年目)、「中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム」(平成23年度は5年目)及びチーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立」(平成23年度採択)により、高度医療に対応できる職員の教育を体系的、実践的に行い、その中で、各職種ごと又は職種を超えたチームでの研修会・勉強会を開催しレベルアップを図った。</p> <p>②女性医師復帰支援と再教育を継続して実施した。</p> <p>③高度救命救急センターの設置に向けて、救命救急医の育成と、研修医の救急研修指導を目的に特別契約職員助教を配置した。</p> <p>④教育環境、労働環境改善として、研修医に対して、シミュレーション教育環境の整備や卒後臨床研修センターによる研修プログラムの見直し・充実を図るとともにアメニティーの向上を図った。また、人員配備の面で働きやすい職場を目指すため、職種ごとに個別に増員計画を図り募集を行うとともに、平成23年度から、職種によっては給与面での処遇改善を図った。</p> <p>⑤職員の学会及び研修会への参加の支援を行っており、国際雑誌へ学術論文が掲載された医療チームに対して、平成23年度に新設した「楳の木賞」を授与し、表彰した。</p>
<p>教育面では、研修医及び看護師などのコメディカルな教育環境、労働環境の改善整備を行い、増加しているスタッフのレベルアップを図り、優れた医療人を養成する。</p>	
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>②-1 目標</b>	<p>研究体制の整備として、平成23年10月から、新規の医療の開発を目指した基礎研究と探索的医薬品を用いた臨床研究を推進する遺伝子・細胞治療センターを、新医療研究開発センター橋渡し研究部探索的医薬品開発室として、また、7月から従来の治験センターを廃止し、新医療研究開発センター治験推進部にその業務を組み入れるなど、橋渡し研究の充実及び治験実施の体制強化を図った。また、臨床研究に関する倫理指針適合性調査の結果を踏まえ、課題であった臨床研究の審査体制の見直しを図るための検討を行った結果、平成24年度から病院に臨床研究審査委員会を設置することになった。</p> <p>次に、主な研究として、</p> <p>①橋渡し研究のシーズである腫瘍融解ウイルス製剤テロマイシンの臨床研究実施計画は、学内の遺伝子治療臨床研究審査委員会での審査を経て、厚生労働省に申請を行い、科学技術部会での審査が開始されている。</p> <p>②小児外科から海綿状リンパ管種のラジオ波焼灼術の臨床研究を申請し、倫理委員会で承認された。</p> <p>③機能的単心室症への自己心臓内幹細胞移植療法7例を実施した。などの、大きな成果を上げた。</p>
<p>研究面では、新医療研究開発センターの拡充、発展を図り、活用することにより、橋渡し研究の充実、治験実施への体制整備を進める。</p>	
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>③-1 目標</b>	<p>&lt;社会貢献面&gt;</p> <p>①東日本大震災発生以後、平成24年4月21日まで、岩手医科大学、大船渡病院へ医師、歯科医師、看護師等の医療チームを派遣するなど支援活動を行い、更に全国医学部長・病院長会議からの要請に基づきその後も継続して医師の派遣を行った。</p> <p>②地域医療連携の機能を充実させるため、病院総合患者支援センターは、特に歯科系の患者紹介システムの見直しを行うなど、体制を整備した。また、地域医療連携システムについて関連病院及び紹介数の多い病院への説明・登録作業を行い、接続を完了した。遠隔医療としては、地域の保健機関と連携し、TV機能付き携帯電話を用いた指導と相談を実施した。</p> <p>③高度先進医療に対する体制整備として、10月に、救急隊員により致死状況にあると判断された傷病者、他の病院・医院により重篤であると判断された3次救急の重症患者を受け入れるための3次救急センターを、11月には小児救急体制及び小児悪性疾患治療を充実させるため小児外科を設置した。また、平成24年4月から、頭頸部領域における多職種専門医療従事者の連携により、同領域の悪性腫瘍患者への適切な治療を行うために頭頸部がんセンターを、岡山県地域医療再生計画に基づく低侵襲治療センター及び糖尿病センターを設置することを決定した。</p> <p>更に、岡山県に申請していた認知症疾患医療センター及び高度救命救急センターについて、平成24年4月設置が認められ、併せて災害拠点病院として指定されることになった。</p> <p>&lt;診療面&gt;</p> <p>前立腺がんに対する新規の医療であるREIC遺伝子治療はすでに15例に及ぶなど、順調に進むとともにその安全性も示されており、一部症例においては抗癌免疫の活性化を示唆する所見が認められている。</p> <p>また、内視鏡手術ロボット「ダ・ヴィンチS」による治療は、前立腺癌では本年度既に18例、早期胃癌で6例となっており、術後早期の退院と高いQOLを実現できている。改正臓器移植法の全面施行後の臓器移植も順調に進んでおり、臓器移植実績では、本年度肺が13件、肝臓16件(生体移植を含む)と国内トップレベルとなっている。</p> <p>&lt;運営面&gt;</p> <p>新中央診療棟の新営に向け、手術室等の診療科への割振計画、導入予定の医療機器の選定作業及び職員の適正な配置計画等について、執行部会議で検討し、順次決定しているが、看護師の安定的確保が課題となっており、他大学病院の現状を調査し、病院内に看護師以外の職種も含めたプロジェクトチームを立ち上げ改善に取り組むこととした。</p> <p>また、毎月の医療費比率、人件費率に関するデータを執行部会議及び診療科長等会議において分析・把握し、執行部会議では新中央診療棟完成後の病院経営状況に視点を向けた経営分析も併せて行っている。経費削減面については、不良在庫の削減や常備薬の管理体制の見直しを図るなど、恒常的にシステムをチェックする取組みを実施している。</p>
<p>社会貢献面では、地域医療連携、特に前方支援体制を整備し、地域の高度先進医療に対する要請に応える体制作りを行う。</p> <p>診療面では、ロボット手術をはじめとして低侵襲医療の拡充など先進医療を推進し、高度で安心・安全な医療を提供して、「最後の砦」としての大学病院の役目を果たす。</p> <p>運営面では、新中央診療棟の新営・開設に備えての準備及び経営体力の強化を図るため、無駄な経費の節減、適切な設備投資及び労働環境改善のための人員増加を図り、持続的な成長を果たす。</p>	
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	

## 【総括記述欄】

平成23年度の組織目標の達成は、病院全体として非常に良好であった。特に、10月に3次救急センターの設置、11月に小児外科の設置及び平成24年4月から頭頸部がんセンターすることを決定した。また、平成24年4月から、岡山県地域医療再生計画に基づく低侵襲治療センター及び糖尿病センターの設置が決定したこと、更には岡山県に申請していた認知症患者医療センター、高度救命救急センターの設置について認められ、併せて災害拠点病院として指定を受けるなど、地域の中核医療機関の使命を果たす体制を整えることができた。

また、今年度は、改正臓器移植法施行後の脳死下臓器移植では国内トップレベルの実績をあげるなど、医療の高度化を更に推進することができた。

平成24年度は、新中央診療棟の完成に向け、その機能を十分発揮できる体制に移行できるよう、十分な準備に取組むとともに、看護師の安定確保に向けた取組みを実施し、医療サービス向上を目指すなど、地域の中核医療機関としての責任を果たすべく更なる充実を図る。